

# 思想を嗣ぐ



## 思想の存続

法多沢川によって作られた谷状のこの地は、豊かな自然に囲まれ、約1300年も前から法多山尊永寺が山に埋もれるようにひっそりと存在してきた。正月には初詣や厄除け団子を求め、多くの人で賑わうが、普段はあまり人が居らず、四季を色濃く表現する自然を纏い静寂な佇まいをしている。この様子を見る人が見れば、嘗ては人々が賑わい、活気が溢れる由緒正しい歴史的門前町が寂れたかのように見えるかも知れない。しかし決してそうではない。それは、江戸時代の絵巻や大正、明治、昭和の地図からでもわかる。行基がこの地に法多山を開山した約1300年も前からこの姿なのである。この静寂な姿こそが、尊永寺で長く受け継がれてきた密教の思想を体現している。そこで私は、この地の「再生」でも「賑わい」でもなく、「存続」を選んだ。

## 密教の思想

密教とは、高野山を総本山とし大衆向けの宗派ではなく、山奥で非公開的に引き継がれてきた宗派である。有りのままの自然を究極の仏の世界と捉え、山の大自然の中に身を投じ、自然に神秘を感じ、また自然と一体化するという世界観によって体系づけられている。そのため、法多山尊永寺もこのような山奥に建てられた。そこで密教の思想を存続させるために、普段見落としてしまう自然を人間の五感に訴えかけ、自然へ感覚を向け、密教を知らない人にも感覚的に密教と通じ合うような参道を設計した。

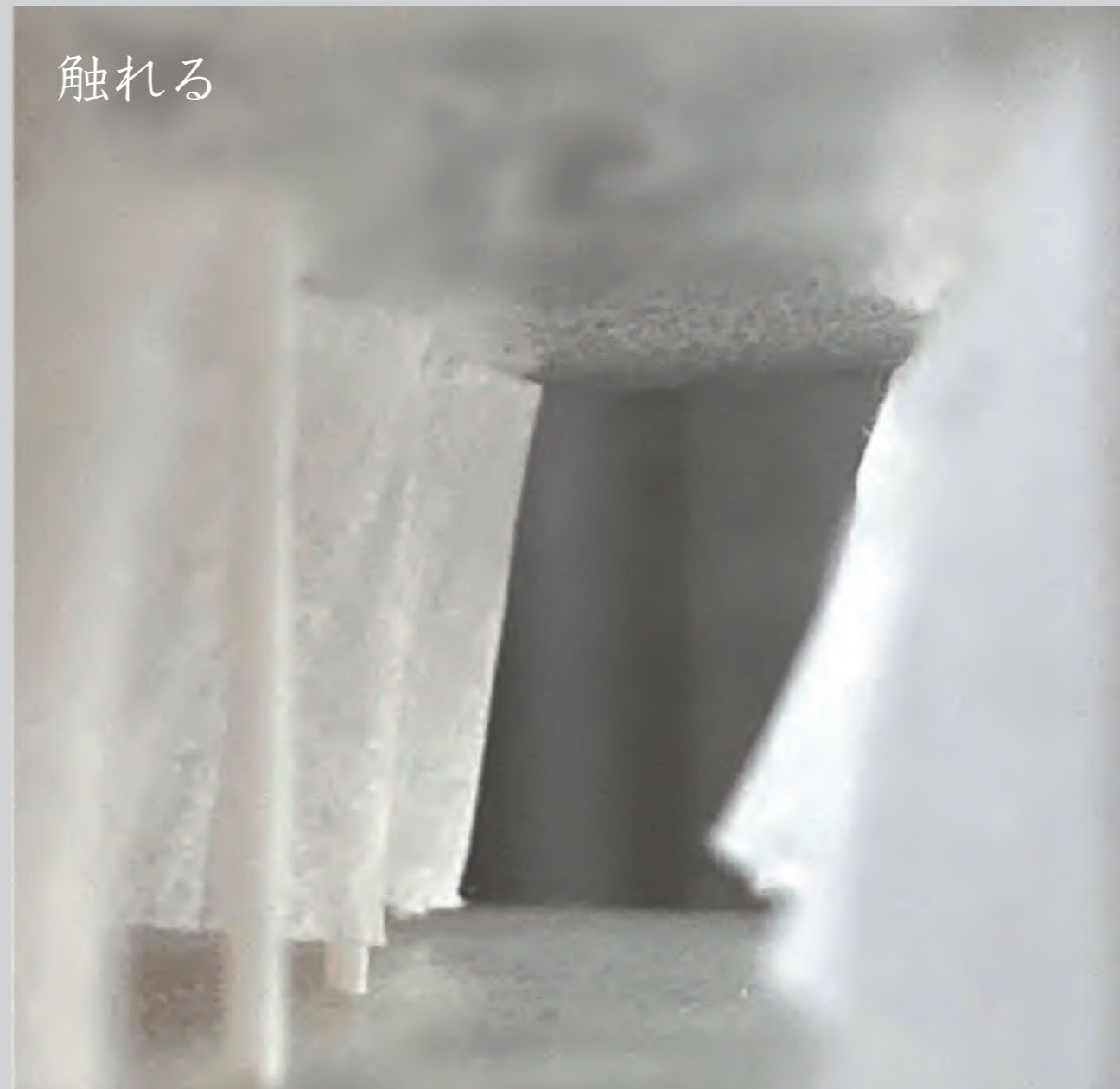
## 視る



## 聴く

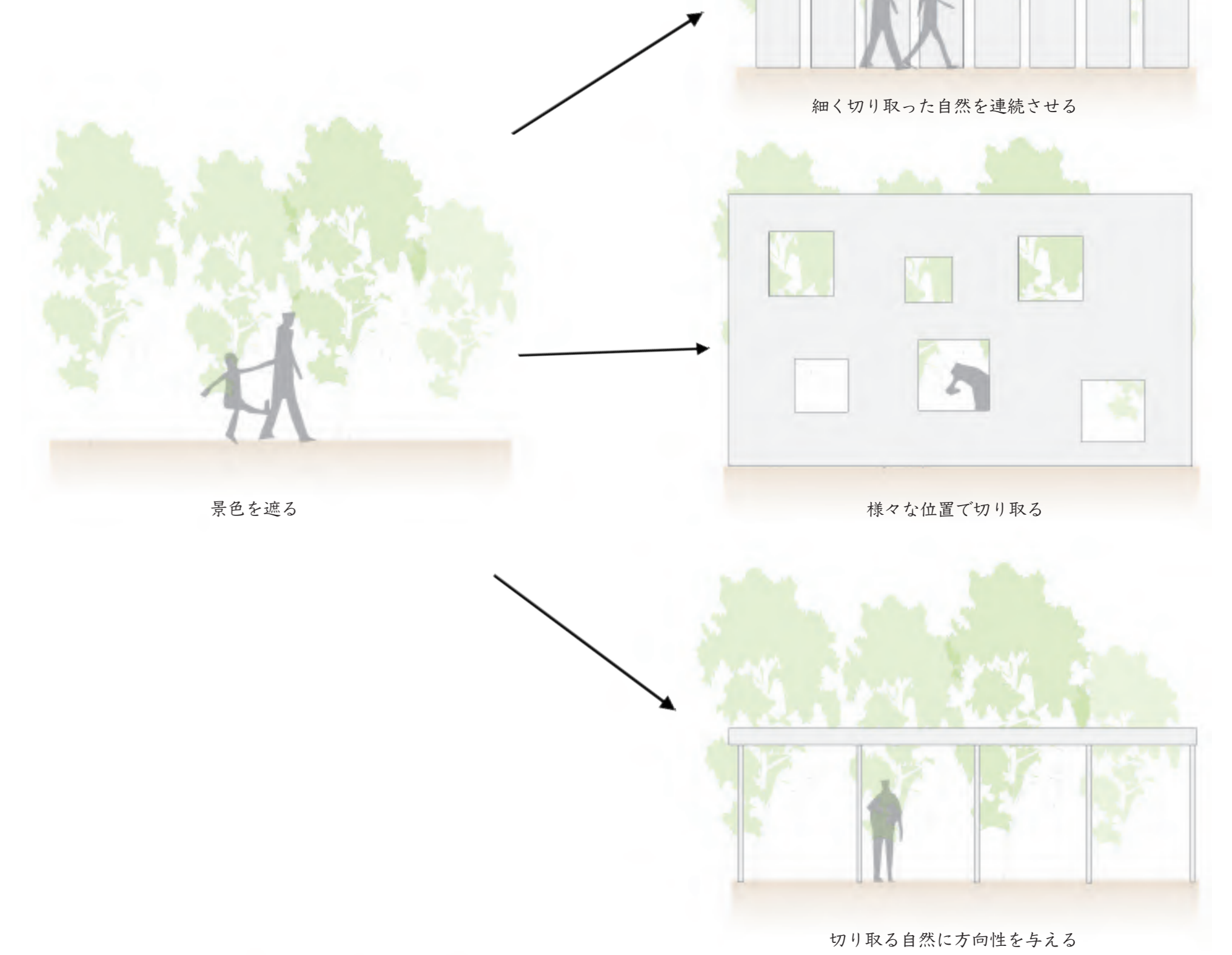


## 触れる

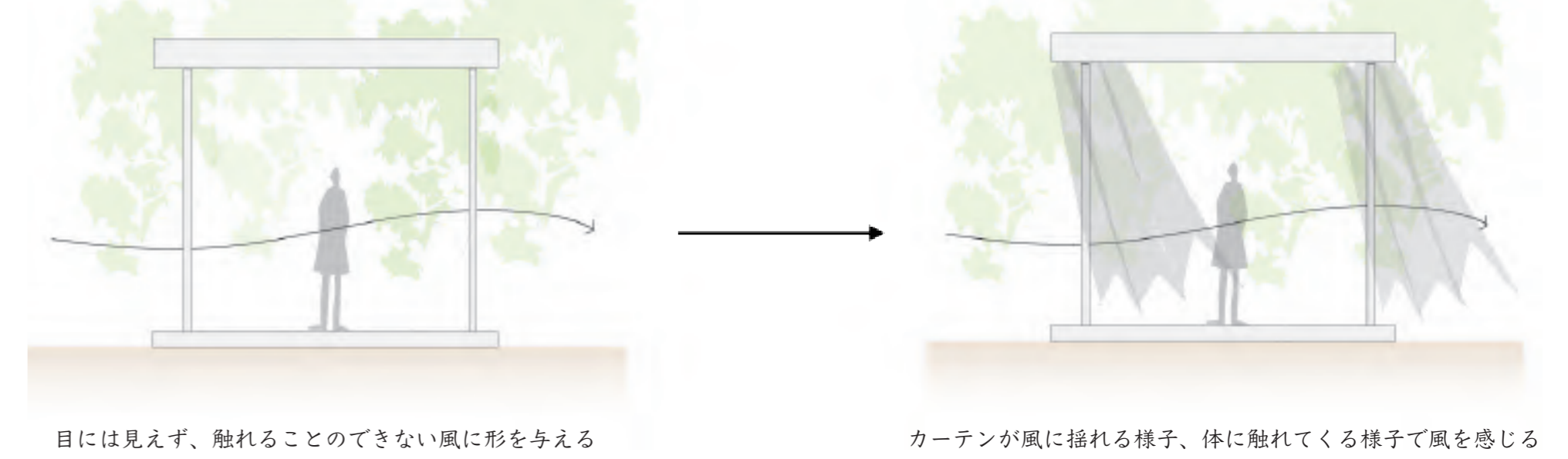


## ダイアグラム

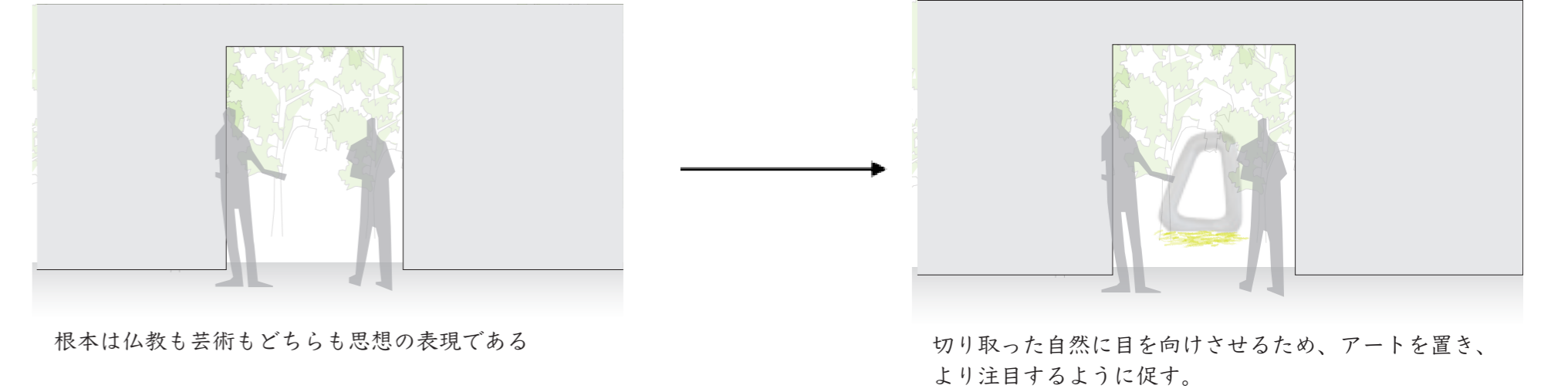
### 「自然を切り取る装置」



### 風を視る、触れる



### 仏教とアート



### 交互に配置をする



